

高校生の時にヤングケアラーだった俳優の山崎育三郎さん

…山崎さんは高校2年生からアメリカに1年間留学し、帰国して自宅に戻った17歳の時、留学中に両親は離婚して、母親は故郷の岡山へ、父親は仕事で北海道へ行き、3人の兄弟も皆海外留学や学校の寮生活で別々に暮らしていた。

その頃、祖父は認知症になって上手く言葉が出て、祖母は脳梗塞で右半身不随になり車いす生活だった。それまで転勤の多い父親は中々自宅にはおらず、その両親である祖父母を十数年間母親が一人で介護しながら働いて、子育てもっていた。祖父はキングコングのように暴れまわったり、物を壊したりすることがあり、母親は精神的にも肉体的にもかなり追い込まれて、留学中の山崎さんに「私、もうダメかもしれない…」と電話をしてきたことがあった。

帰国した山崎さんは、母親の戦争のような日々を子どもの頃からずっと見てきていたし、親元を離れてアメリカで過ごす中で自信と自立心が生まれていたので祖父母の介護を決断した。「「子育て」しながら「介護」もしていた母親に比べれば、数年間なら自分一人でも大変じゃない」と思っていた。毎日ご飯を作つて食べさせて、トイレに連れて行って、自分が高校に行くタイミングでヘルパーさんが来てバトンタッチ。高校から戻るとヘルパーさんが帰る。また一緒にご飯を食べて、お風呂に入れて、着替えさせて、寝かせるという毎日を過ごし、人生の中でも一番大変な時期だったと話している。およそ高校生らしい「青春」の時間はもてなかつたと振り返る。